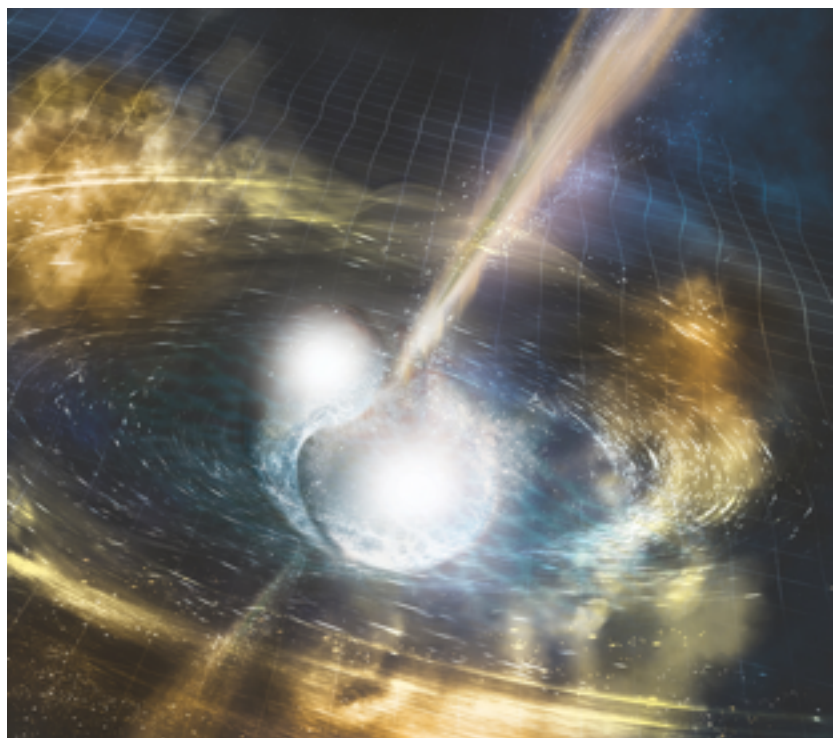


## 物理教室談話会

### 2017年ノーベル物理学賞と 重力波観測の解説

日時：11月17日  
16:30-18:00 (5限)

場所：理学部 第4講義室  
(F205)



中性子星連星合体の想像図  
(Credit: NASA/Swift/Dana Berry)

講演1：重力波観測と2017年ノーベル物理学賞  
神田展行（物理学科 宇宙・高エネルギー講座 教授）

講演2：中性子星と重力波天文学  
伊藤洋介（物理学科 宇宙・高エネルギー講座 准教授）

2017年のノーベル物理学賞は、重力波の初観測に貢献した米国LIGO実験のR.ワイス、B.バリッシュ、K.ソーンの3氏に送られました。また本年8月には、中性子星連星合体からの重力波が発見され、さらにガンマ線バーストや光学望遠鏡との同時観測が成功したことで天体物理関係での大変な話題になっています。このように重力波観測は、現在新しい研究の局面を開きつつあります。

大阪市大は日本では数少ない重力波実験の研究室がある大学で、日本のKAGRA実験のデータ観測拠点です。LIGO実験とも研究交流があります。

そこで、今回のノーベル賞と話題の中性子星連星合体の観測について解説を行います。物理学科の学部生を主な対象として、受賞した3氏とお会いした話（神田）や、LIGO実験の経験談（伊藤）も交えて、わかりやすく解説します。

またご関心をお持ちの他学科の学生や、大学院生、スタッフの聴講も歓迎いたします。